

** この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

** 2023年2月改訂(第3版)

* 2022年8月改訂(第2版)

製造販売承認番号:30300EZX00066000

陸トリコモナス核酸キット
マイコプラズマジェニタリウム核酸キット
コバス® TV/MG

【全般的な注意】

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
3. 電子化された添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
4. 使用する機器の電子化された添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。また、試薬ごとに設定された反応時間及び温度などは厳守してください。
5. 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。
6. キットの試薬を取り扱う際には保護眼鏡、実験着及び使い捨てゴム手袋を着用し、試薬が皮膚、目、粘膜などに触れないように注意してください。もし、このようなことが起きた場合は、大量の水でじゅうぶんに洗い流し、必要に応じて医師の診察を受けてください。

【形状・構造等(キットの構成)】

コバス TV/MG

1. プロテアーゼ試液

〔PASE〕

384 テスト用 1 カセット

1 × 38 mL

2. 内部コントロール

〔DNA-IC〕

1 × 38 mL

3. 溶出試液

〔EB〕

1 × 38 mL

4. マスター・ミックス 1

〔MMX-R1〕

1 × 14.5 mL

5. マスター・ミックス2

〔TV/MG MMX-R2〕

TV ブライマー1

TV ブライマー2

MG ブライマー1

MG ブライマー2

MG ブライマー3

MG ブライマー4

MG ブライマー5

MG ブライマー6

2'-デオキシアデノシン-5'-三リン酸(dATP)

2'-デオキシシチジン-5'-三リン酸(dCTP)

2'-デオキシグアノシン-5'-三リン酸(dGTP)

2'-デオキシリジン-5'-三リン酸(dUTP)

TV プローブ 1

MG プローブ 1

MG プローブ 2

Z05 DNA ポリメラーゼ

【使用目的】

尿、腔擦過物又は子宮頸管擦過物中の腔トリコモナスDNA及びマイコプラズマジェニタリウムDNAの検出(腔トリコモナス感染又はマイコプラズマジェニタリウム感染の診断の補助)

【測定原理】

1. 本キットの測定は以下の3つのステップからなります。試料の調製から増幅及び測定までは「コバス 5800 システム」、「コバス 6800 システム」又は「コバス 8800 システム」が自動で行います。

(1) 試料の調製

コバス OMNI 検体希釈液を加えた検体又はコントロールにプロテアーゼ試液(PASE)、内部コントロール DNA(IC DNA)を含む内部コントロール(DNA-IC)、コバス OMNI MGP 試薬及びコバス OMNI ライシス試薬を添加してインキュベーションします。これにより菌が溶解し、検体中の核酸は磁性粒子に吸着します。核酸が吸着した磁性粒子は、磁石により捕らえられて固定され、溶解した菌のたん白などの不要な成分は洗浄により除去されます(B/F 分離)。これに溶出試液を加えて核酸を遊離させ試料とします。

(2) 増幅及び測定

(1)に引き続き、増幅及び測定が行われます。リアルタイム PCR (Polymerase Chain Reaction) 法^[1,2]を応用し、測定には蛍光色素(レポーター)及び消光物質(クエンチャラー)で標識した腔トリコモナス(以下、TV)DNA、マイコプラズマジェニタリウム(以下、MG)DNA 及び IC DNA 用 DNA プローブを用います。このプローブの蛍光色素は、クエンチャラーが近くに存在する場合は、クエンチャラーにより蛍光が消され強い蛍光を発することはありませんが、レポーターとクエンチャラーが切り離された場合は、レポーターが遊離するために強い蛍光を発するようになります。

始めに、(1)で調製した試料にマスター・ミックス 1 とマスター・ミックス 2 を加えます。2 本鎖 DNA を高温で 1 本鎖に変性させた後に温度を下げるとき TV DNA、MG DNA 及び IC DNA 用 DNA プローブが標的の配列とハイブリダイズします。また、ブライマーが標的の配列の 3' 末端側へアーニルし、Mn²⁺ 及びデオキシヌクレオシド三リン酸(dNTP) 存在下、耐熱性 Z05 DNA ポリメラーゼの働きにより標的の配列に相補的な DNA 鎮が伸長されます。DNA 鎮の伸長と同時に既に標的の配列とハイブリダイ

ズしている TV DNA、MG DNA 及び IC DNA 用 DNA プローブは Z05 DNA ポリメラーゼの 5' → 3' エクソヌクレアーゼ活性により分解され蛍光を発します。続いてこの蛍光強度を TV DNA、MG DNA 及び IC DNA 用 蛍光色素それぞれに固有の異なる波長で測定します。この「熱変性」、「DNA プローブと標的の配列のハイブリダイズ」、「ブライマーのアーニル」、「耐熱性 Z05 DNA ポリメラーゼによる相補鎮の伸長と DNA プローブの分解による蛍光発光」、「蛍光強度の測定」を所定のサイクルで連続的に繰り返し、各サイクルの PCR 産物をリアルタイムにモニターしながら增幅曲線を作成します。作成した增幅曲線より蛍光強度が一定量以上となるサイクル数を求め、Ct 値(Cycle-to-threshold value)とします。TV DNA 及び MG DNA のそれについて、Ct 値が求められた場合を陽性、求められなかった場合を陰性とします。

2. キャリーオーバーコンタミネーションの防止

本キットでは、以下の方法により増幅された DNA 産物のキャリーオーバーコンタミネーションによる誤測定を最小限に抑制しています。
DNA 合成に必要な基質の一つである dTTP の代わりに dUTP を用いて増幅反応を行ったため、増幅された DNA の塩基配列はチミン(T)がウラシル(U)に全て置き換わっています。また、この系で増幅された DNA が新たに試験する試料中へ混入した場合、マスター・ミックスに含まれているウラシル N-グリコシラーゼ(UNG)が作用し DNA 中の U 塩基は除去されます。塩基を失った DNA は構造上極めて不安定な分子であり、増幅反応の最初の加熱によりリボン酸結合が切断され、新たな増幅の錠型とはなりません。UNG は高温で失活するため、それ以後に増幅されてくる U 塩基を含む増幅 DNA は影響を受けません。また、UNG は 6 塩基以上の DNA 上のウラシルのみに反応し、モノマーの dUTP や RNA 上のウラシルには作用しません^[3]。

【操作上の注意】

1. 測定試料の性質・採取法

本キットの測定試料には、尿、腔擦過物又は子宮頸管擦過物から抽出した核酸溶液を用います。

(1) 検体の採取法

① 尿(初尿)検体の場合

- (a) 最後の排尿から少なくとも 1 時間以上経過していることを確認してください。
- (b) 尿採取容器に初尿を採取し、「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II^{※1}」又は「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II(ピペット付)^{※1}」に移します。
- (c) 初尿は「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II」又は「コバス PCR 尿うがい液採取セット II(ピペット付)」に記載されている 2 つのラインの間に収まるように加えてください。
- (d) 「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II」又は「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II(ピペット付)」の蓋をしっかりと閉め、5 回転倒混和してください。

② 腔擦過物(腔スワブ)及び子宮頸管擦過物(子宮頸管スワブ)の場合

「コバス PCR スワブ検体採取セット III^{※1}」(別売)を使用します。スワブ検体の採取方法は製品の説明書に従ってください。

※1 別売品につきましては【用法・用量(操作方法)】2. 別途必要な器具・器材・試薬】を参照してください。

(2) 検体の輸送と保存

① 初尿は採取後 2~30°C で 24 時間以内に「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II」又は「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II(ピペット付)」へ移してください。

② スワブ検体は採取後、直ちに「コバス PCR スワブ検体採取セット III」へ移してください。

③ 「コバス PCR スワブ検体採取セット III」、「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II」又は「コバス PCR 尿・うがい液採取セット II(ピペット付)」を用いて採取したスワブ・尿の検体輸送、保存は 2~30°C で行い、凍結しないでください。また、採取から 1 年以内に検査を実施してください。

1. 禁物質・妨害薬剤

(1) 内因性妨害物質による検討結果

採取した検体に含まれる可能性がある物質について検討した結果、尿検体及びスワブ検体に対して、以下の濃度までは本品への影響は認められませんでした。

物質名	尿検体	スワブ検体
アルブミン	0.5% (w/v)	N/A ^{※2}
ビリルビン	1.0% (w/v)	N/A ^{※2}
粘液	あり ^{※3}	あり ^{※3}
グルコース	1.0%(w/v)	N/A ^{※2}
末梢血単核細胞	1.0E+06 cells/mL	1.0E+06 cells/mL
pH	pH4, pH9	N/A ^{※2}
精液	13 mg/mL	22 mg/mL
全血	10% (v/v)	10% (v/v)

※2 N/A: 該当なし

※3 あり: 子宮頸管擦過物採取時にスワブで拭った粘液を添加

(2) 外因性妨害物質による検討結果

* 下表に示す腔擦過物、子宮頸管擦過物及び尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel, Replens, Rep Hresh において通常検体に存在しうる濃度で本品への影響(偽陰性化もしくは無効な結果)が認められました(Azo Standard は尿検体のみ検討)。これら 3 製品はカルボマー(カルボキシビニルポリマー)を含んでいます。腔潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

** 腔擦過物、子宮頸管擦過物及び尿に存在する可能性のある製品

(表はカルボマーを含む製品を網羅的に示しているわけではありません)

本品への影響が確認された製品(海外製品名)
Clindamycin Phosphate Vaginal Cream
CVS tioconazole 1 (Equate tioconazole 1)

Equate Vagicaine Anti-Itch Cream	Norforms Suppositories	Azo Standard (Urine only)
Estrace	Premarin	K-YTM UltraGel (Replaces KY Silk E)
Arilin rapid vaginal suppositories ^{※4}	Summer's Eve Feminine Deodorant Spray	Vagi Metro Cream ^{※4}
Monistat 3 Vaginal Antifungal Combination Pack	Vaginal Contraceptive Foam	Nidazea Gel ^{※4}
本品への影響が確認された製品(海外製品)		
Metronidazole Vaginal Gel ^{※5}	Replens Long-Lasting Vaginal Moisturizer ^{※6}	RepHresh Clean Balance ^{※5}

※4 Sandoz によるメトロニダゾール塗膜ゲルと対照的に、影響を示さなかったメトロニダゾールを含む製品

※5 Metronidazole Vaginal Gel、Replens 及び RepHresh は、臨床検体に存在する可能性のあるレベルで影響が確認されました。

3. 交差反応性

別表に示す102種の微生物について検討した結果、真菌・細菌は1.0E+06 各単位/mL、ウイルスは1.0E+05 各単位/mLの濃度まで本品への影響は確認されませんでした。ただし、Trichomonas tenax については 1.0E+04 cells/mL の濃度までは本品への影響は確認されませんでした。

4. 反応特異性

TV に属する 8 種類の株及び MG に属する 5 種類の株に対する本品の反応特異性を調べたところ、以下の濃度において 95%以上の陽性率(陽性と判定された測定数／有効であった測定数×100)を示すことが確認されました。

TV 株	尿検体	スワブ検体
	cells/mL	
C-1:NIH	0.07	0.24
123414	0.07	0.24
129155-8	0.07	0.24
CDC337	0.07	0.24
NYH 209	0.07	0.24
PRA-98	0.07	0.24
801805	0.07	0.24
BACT-053LR01	0.07	0.24

MG 株	尿検体	スワブ検体
	copies/mL	
SEA-1	0.8	5.0
M2288	0.8	5.0
M2300	0.8	5.0
M2321	1.6	5.0
M2341	0.8	5.0

5. コンタミネーションに関して

本キットではマスターMixき 2 にウラシル N-グリコシラーゼ(UNG)が添加されており、また、Z05 DNA ポリメラーゼによる DNA 合成に必要な基質の一つである dTTP の代わりに dUTP を用いて PCRを行います。したがって、本キットにて増幅された DNA のキャリーオーバーコンタミネーションによる偽陽性を防止することはできますが、検体間で発生するクロスコンタミネーションを防止することはできません。クロスコンタミネーションは、主に検体を扱ったビペットなどで発生するエアロゾルやビペット本体の汚染が原因となりますので、検査区域の分割やビペットの専用化及び次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 5,000 ppm、0.5%)による器具、実験台の清掃を徹底することで、クロスコンタミネーションを最小限に防止することができます。したがって、本キットの測定に当たっては次の事項を徹底するようにしてください。

- (1) 検体をコバス PCR セカンダリーチューブに分注する際は、安全キャビネットを利用するなどバイオセーフティー／バイオハザードに準拠した環境で実施してください。専用のビペットとチップなどを用意し、ほかの場所との共用は避けてください。ここで使用する器具や保護衣をほかの場所に持ち込まないでください。また、分注時には、すべて静かに操作してエアロゾルの発生をできる限り防止してください。
 - (2) 本キットを取り扱う際には微生物や核酸分解酵素のコンタミネーションを避けてください。汗や唾液に含まれる RNase や DNase が少量でも検体に混入しますと、RNA や DNA が分解され測定結果に誤りが生じる可能性があります。
 - (3) 実験台及び使用器具などが検体や増幅 DNA で汚染された場合は、用時調製した次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 5,000 ppm、0.5%)でよく拭き取るか、紫外線照射をじゅうぶん行ってください。なお、ビペットなどの内部が汚染されたと判断された場合は、直ちにその使用を中止して新しい器具に交換してください。
- 以上の事項に従っても、クロスコンタミネーションが起こる可能性がありますので、結果の判定にはじゅうぶん注意してください。
- なお、TV/MG 強陽性検体と陰性検体を交互に測定したところ、検体間のコンタミネーション発生率は TV 検体で 0.7%(4/576)、MG 検体で 0.0%(0/480)であり、ラン間のコンタミネーション発生率は 0%(0/188)でした。

6. その他の留意事項

試料中に PCR の妨害物質が存在すると正しい判定結果が得られないで注意してください。また、試料中に標的 DNA が存在しても最小検出感度以下である場合には Target Not Detected(検出せず)と判定されることがありますので注意してください。

【用法・用量(操作方法)】

1. 試液の調製方法及び安定性

すべての試薬はそのまま用います。

2. 別途必要な器具・器材・試薬等

コバス 5800 システム、コバス 6800 システム及びコバス 8800 システム共通

- (1) コバス TV/MG 陽性コントロールキット^{※6}
- (2) コバス 6800/8800 システム パッファ陰性コントロールキット^{※7}
- (3) コバス PCR スワブ検体採取セットIII^{※7}

- (4) コバス PCR 尿・うがい液採取セットII^{※7}
- (5) コバス PCR 尿・うがい液採取セットII(ペーパット付)^{※7}
- (6) コバス PCR セカンダリーチューブキット^{※7}
- (7) コバス PCR エクストラキャップセット^{※7}
- (8) コバス OMNI 廃液タンク^{※7}
- (9) コバス OMNI ライシス試薬^{※6}
- (10) コバス OMNI MGP 試薬^{※6}
- (11) コバス OMNI 検体希釈液^{※6}
- (12) コバス OMNI 洗浄試薬^{※6}
- (13) サンプルチューブ
- (14) 安全キャビネット(陰圧)
- (15) ゴム手袋(パウダーフリー)

コバス 5800 システムに用いる器具・器材

- (1) コバス OMNI P プレート 24^{※7}
- (2) コバス OMNI A プレート 24^{※7}
- ** (3) コバス OMNI 廃液プレート 24^{※5}
- (4) CORE チップ 300μL^{※7}
- (5) CORE チップ 1000μL^{※7}
- (6) コバス OMNI バイオハザードパック または コバス OMNI バイオハザードパック インサート付き^{※7}
- (7) コバス 5800 システム
- (8) コバス 5800 システムソフトウェア
- (9) x800 Data manager
- (10) 検体架設用ラック(用途に応じてコバス 5800 システム 5-ポジションラックキャリア、コバス 5800 システム 16-ポジションサンプルラックキャリア、コバス 5800 システム Cell Collection Media キャリアを用いる)

コバス 6800 システム又はコバス 8800 システムに用いる器具・器材

- (1) コバス OMNI P プレート^{※7}
- (2) コバス OMNI A プレート^{※7}
- (3) コバス OMNI ビ^oペットチップ^{※7}
- (4) コバス OMNI バイオハザードパック インサート付き^{※7}
- (5) コバス 6800 システム又はコバス 8800 システム
- (6) コバス 6800 システム又はコバス 8800 システムソフトウェア
- (7) コバス 6800 システム又はコバス 8800 システム IG サーバー
- (8) 検体架設用ラック(MPA ラック)^{※7}
- (9) コラブシブルトレイ

※6 別売りの専用試薬を使用してください。

※7 別売りの専用消耗品を使用してください。

検体分注専用として下記を用意してください(安全キャビネット内で使用します)。

- (1) 試験管管キサー
- (2) マイクロビペット(1,000 μL)及びチップ
(チップは疎水性フィルター付きで、1,000 μL 用)
- (3) ゴム手袋(パウダーフリー)

3. 操作方法

測定に必要な検体量は検体種により異なり、スワブ:1 mL(デッドボリューム 600 μL + 検体使用量 400 μL)又は尿:1.2 mL(デッドボリューム 350 μL + 検体使用量 850 μL)です。

コバス 5800 システム

1. 試料の準備

所定の方法で採取した検体を、コバス PCR メディアに移して直接コバス 5800 システムに架設できます。必要に応じて、コバス PCR セカンダリーチューブへ分注してください。

2. コバス 5800 システムの準備

- ① 装置右側面スイッチを押し本体の電源を入れます。
- ② ユーザーインターフェースにログインします。
- ③ 必要に応じ保守点検を実施します。

3. 試薬のロード(セット)

- ① コバス TV/MG を試薬カセットドロワーにロードします。また、必要に応じてコバス TV/MG 陽性コントロールキット、コバス 6800/8800 システム パッファ陰性コントロールキットをコントロールミニラックドロワーにロードします。
- ② コバス OMNI MGP 試薬を MGP カセットドロワーにロードします。
- ③ コバス OMNI ライシス試薬、コバス OMNI 検体希釈液、コバス OMNI 洗浄試薬をバルク試薬ドロワーにロードします。

4. 消耗品のロード(セット)

- ① CORE チップ 300μL を E チップトレードロワーに、CORE チップ 1000μL を P チップトレードロワーにそれぞれロードします。
- ② コバス OMNI P プレート 24 を P プレートドロワーに、コバス OMNI A プレート 24 を A プレートドロワーにロードします。
- ③ コバス OMNI 廃液プレート 24 を廃液プレートドロワーにロードします。

5. 試料のオーダー(登録)とロード(セット)

- 測定パラメーターは「Swab」又は「Urine」のうち最適なものを選択します。オーダーする方法は、装置ソフトウェアでのマニュアルオーダーとオンラインによるオーダーの二通りあります。オンラインによるオーダーは上位の検査システムからオーダーを受け取る方法です。
- ① 検体架設用のラックにバーコードが付与された検体チューブをのせ、サンプルローディングエリアへロードします。
サンプルチューブに関してはコバス 5800 システムの取扱説明書を参照してください。
 - ② マニュアルオーダー、またはオンラインによるオーダーにより各検体のテストオーダーが作成されます。
 - ③ テストオーダーは同時に測定をする最大 24 テスト(外部コントロールを含む)の組みであるバッチでスケジューリングされます。

(6) コバス 5800 システムによる測定開始

装置操作画面にてバッチが作成されたことを確認し、スタートボタンをクリックして測定を開始します。

(7) 測定の終了

測定が終了したら、結果を確認します。オンラインをしている場合は、上位の検査システムへ送信します。検体チューブを取り出し、固形廃棄物、廃液の廃棄を行います。

コバス 6800 システム又はコバス 8800 システム

1 測定につきコントロールとして TV/MG 陽性コントロール[TV/MG(+)-C]、内部及びバッファ陰性コントロール[BUF(-)-C]を測定し、精度管理を行います。

(1) 試料の準備

所定の方法で採取した検体を、コバス PCR メディアに移して直接コバス 6800/8800 システムに架設できます。必要に応じて、コバス PCR セカンダリーチューブへ分注してください。

(2) コバス 6800 システム、コバス 8800 システムの準備

- ① タッチスクリーン下部の主電源を押します。
- ② サンプルサプライモジュールの電源を ON にします。
- ③ ユーザーインターフェースにログインします。
- ④ 必要に応じ保守点検を実施します。
- ⑤ ユーザーインターフェース上のスタートボタンをクリックします。

(3) 試薬のロード(セット)

- ① コバス TV/MG、コバス TV/MG 陽性コントロールキット、コバス 6800/8800 システム、バッファ陰性コントロールキットをトランスマーカーモジュールのドロワーから内蔵の冷蔵庫にロードします。
- ② コバス OMNI MGP 試薬をプロセスマジュールのドロワー内のマガジンにロードします。
- ③ コバス OMNI ライシス試薬、コバス OMNI 検体希釈液、コバス OMNI 洗浄試薬をプロセスマジュールのパルク試薬ドロワー及び洗浄試薬ドロワーへロードします。

(4) 消耗品のロード(セット)

- ① コバス OMNI ピベットチップをトランスマーカーモジュールのドロワー内のマガジンへロードします。
- ② コバス OMNI P プレート、コバス OMNI A プレートをプロセスマジュールのドロワー内のマガジンにロードします。

(5) 試料のオーダー(登録)とロード(セット)

測定パラメーターは「Swab」又は「Urine」のうち最適なものを選択します。オーダーする方法は、ラックベースオーダーとオンラインによるオーダーの二通りあります。ラックベースオーダーはラック ID に対しらかじめ検査項目を指定する方法で、ソフトウェア上で設定できます。オンラインによるオーダーは上位の検査システムからオーダーを受け取る方法です。

- ① MPA ラックにバーコードが付与されたコバス PCR メディア及びコバス PCR セカンドリーチューブをのせ、コラブシブルトレイ(MPA ラックが最大 15 本搭載可能)に MPA ラックを載せて、サンプルサプライモジュールへロードします。

MPA ラック	コバス PCR メディア
直径 (mm)	高さ (mm)
16 mm	14.5 - 16.0
	75 - 100

サンプルチューブに関してはコバス 6800 システム、コバス 8800 システムの取扱説明書を参照して下さい。

- ② ラックベースオーダー、またはオンラインによるオーダーにより各検体のテストオーダーが作成されます。
- ③ テストオーダーは同時に測定をする最大 96 テスト(外部コントロールを含む)の組みであるバッチに割り当てられます。

(6) コバス 6800 システム、コバス 8800 システムによる測定開始

バッチ内のテストオーダー数が 96 に到達した場合、機器は自動で測定を開始します。96 に満たない場合は、ソフトウェア上のマニュアルスタートボタンをクリックして測定を開始します。

(7) 測定の終了

測定が終了したら、結果を印刷、またはオンラインで上位の検査システムへ送信します。検体チューブを取り出し、固形廃棄物、廃液の廃棄を行います。

各機器の操作の詳細については、取扱説明書を参照してください。操作の概略は最終ページの図を参照してください。

【測定結果の判定法】

1. 測定結果の判定

(1) 判定法

「コバス 5800 システム」、「コバス 6800 システム」又は「コバス 8800 システム」では検体及びコントロールの測定結果判定を自動で行います。各コントロールが正しく測定され各検体が判定可能な場合は、測定結果は次のように表示されます。なお、測定結果が判定不能の場合は測定画面又は印字用紙に“Invalid”の結果とともにフラグが表示されるので、各機器の取扱説明書を参照してください。

コントロールの測定結果

コントロール	結果表示
TV/MG 陽性コントロールキット	Valid
バッファ陰性コントロールキット	Valid

検体の判定結果

- ① TV DNA 及び MG DNA を両方測定する場合

表示	結果の解釈
Target 1: TV Positive	TV DNA 陽性
Target 2: MG Positive	MG DNA 陽性
Target 1: TV Positive	TV DNA 陽性
Target 2: MG Negative	MG DNA 陰性
Target 1: TV Negative	TV DNA 陰性
Target 2: MG Positive	MG DNA 陽性
Target 1: TV Negative	TV DNA 陰性
Target 2: MG Negative	MG DNA 陰性

表示	結果の解釈
Target 1: TV Positive	TV DNA 陽性
Target 2: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)
Target 1: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)
Target 2: MG Positive	MG DNA 陽性
Target 1: TV Negative	TV DNA 陰性
Target 2: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)
Target 1: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)
Target 2: MG Negative	MG DNA 陰性
Target 1: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)
Target 2: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)

② TV DNA のみを測定する場合

表示	結果の解釈
Target 1: Positive	TV DNA 陽性
Target 1: Negative	TV DNA 陰性
Target 1: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)

③ MG DNA のみを測定する場合

表示	結果の解釈
Target 2: Positive	MG DNA 陽性
Target 2: Negative	MG DNA 陰性
Target 2: Invalid ^{※8}	判定不能(要再検)

※8 “Invalid”が表示された場合は再検が必要となります。再検は 2 回までとし、有効な結果が得られなかった場合は検体を採取しなおしてください。

2. 結果の判定にかかる注意

臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて担当医師が総合的に判断してください。

【臨床的意義】

TV は世界でも最も感染者数の多い性感染症の原因であり、男性では尿道炎、女性では膣内のかゆみやただれを引き起こす原虫です。診断に有用とされている培養法では結果を得るまでに 1 週間以上を要することから、TV 症に対する高感度かつ迅速な確定診断法の確立が強く望まれています。また、MG は尿道炎、子宮頸管炎や骨盤内炎症性疾患を引き起こす細菌であり、確立した診断法や体外診断用医薬品がないことによって薬剤耐性菌が増加、高頻度で症状の持続、再発をきたすことが問題として挙げられます。そのため、臨床性能が担保された体外診断用医薬品による MG 感染症の診断方法の確立がアンメットニーズになっています。

本品を用いた米国での臨床性能試験において、米国の実臨床で使用されている培養法及び複数の核酸検出法に基づき決定した患者感染状態(Patient Infection Status: PIS)との比較で TV 検出の全体一致率 98.0%、MG 検出の全体一致率 97.1%を示しました。

また、国内での臨床性能試験においては、培養法及び核酸検出法との比較で TV 検出の全体一致率 97.5%、MG 検出の全体一致率 96.4%を示しました。

以上より、本品は「座トリコモナス感染又はマイコプラズマジエニタリウム感染の診断の補助」に有用であることが示されました。

海外臨床性能試験成績

米国で家族計画・産科・産婦人科・性感染症クリニックより集めた 2,154 症例を対象に、本品の測定結果と PIS を比較して本品の臨床性能を検討しました。TV PIS は FDA ガイダンスに従い、培養法と FDA 既承認の核酸検出法の結果を組み合わせて決定しました。MG PIS は FDA との協議の結果、核酸検出法 3 法の結果を組み合わせて決定しました。

TV 検出の乖離解析は各測定結果の詳細を用いて行いました。MG 検出の乖離解析は各測定結果の詳細及び本品と異なる標的配列を持つ自家調製の核酸検出法(以下、第三法)を用いて行いました。

TV 検出における PIS との比較

TV(女性尿)	PIS		
	感染	非感染	計
本法	陽性	167	12 ^{※10}
	陰性	4 ^{※9}	894
	計	171	906
			1,077

感度:97.7%(167/171)、特異度:98.7%(894/906)

※9: 乖離検体 4 例のうち、3 例は本品と一致ませんでした。1 例は乖離の原因を特定できませんでした。

※10: 乖離検体 12 例のうち、9 例は本品がごく低濃度の TV を検出したと考えられました。

TV(膣擦過物)	PIS		
	感染	非感染	計
本法	陽性	170	29 ^{※12}
	陰性	1 ^{※11}	877
	計	171	906
			1,077

感度:99.4%(170/171)、特異度:96.8%(877/906)

※11: 乖離検体 1 例は、乖離の原因を特定できませんでした。

※12: 乖離検体 29 例のうち、24 例は本品がごく低濃度の TV を検出したと考えられました。

TV(子宮頸管擦過物)	PIS		
	感染	非感染	計
本法	陽性	166	17 ^{※14}
	陰性	4 ^{※13}	887
	計	170	904
			1,074

**感度:97.6%(166/170)、特異度:98.1%(887/904)

※13: 乖離検体 4 例は、乖離の原因を特定できませんでした。

※14: 乖離検体 17 例は、すべて本品がごく低濃度の TV を検出したと考えられました。

TV(男性尿)		PIS		
		感染	非感染	計
本法	陽性	23	15 ^{※15}	38
	陰性	0	945	945
	計	23	960	983

感度:100%(23/23)、特異度:98.4%(945/960)

※15: 乖離検体 15 例のうち、11 例は本品がごく低濃度の TV を検出したと考えられました。

MG 検出における PIS との比較

MG(女性尿)		PIS		
		感染	非感染	計
本法	陽性	51	31 ^{※17}	82
	陰性	8 ^{※16}	1,009	1,017
	計	59	1,040	1,099

感度:86.4%(51/59)、特異度:97.0%(1,009/1,040)

※16: 乖離検体 8 例は、第三法の解析によりすべて陰性と判定されました。

※17: 乖離検体 31 例のうち、30 例は本品がごく低濃度の MG を検出したと考えられました。

MG(腔擦過物)		PIS		
		感染	非感染	計
本法	陽性	57	31 ^{※19}	88
	陰性	2 ^{※18}	1,011	1,013
	計	59	1,042	1,101

感度:96.6%(57/59)、特異度:97.0%(1,011/1,042)

※18: 乖離検体 2 例は、第三法の解析によりすべて陰性と判定されました。

※19: 乖離検体 31 例は、すべて本品がごく低濃度の MG を検出したと考えられました。

MG(子宮頸管擦過物)		PIS		
		感染	非感染	計
本法	陽性	49	17 ^{※21}	66
	陰性	10 ^{※20}	1,023	1,033
	計	59	1,040	1,099

※感度:83.1%(49/59)、特異度:98.4%(1,023/1,040)

※20: 乖離検体 10 例は、第三法の解析によりすべて陰性と判定されました。

※21: 乖離検体 17 例のうち、16 例は本品がごく低濃度の MG を検出したと考えられました。

MG(男性尿)		PIS		
		感染	非感染	計
本法	陽性	60	24 ^{※22}	84
	陰性	0	961	961
	計	60	985	1,045

感度:100%(60/60)、特異度:97.6%(961/985)

※22: 乖離検体 24 例のうち、22 例は本品がごく低濃度の MG を検出したと考えられました。

国内臨床性能試験成績

国内で集めた尿道炎、腔トリコモナス症、細菌性腫瘍症の患者もしくは疑いのある患者 1,297 例症例を対象に、培養法及び国内未承認品の核酸検出法(キット A)を国内における臨床診断と定義し、本品の測定結果と比較して臨床性能を検討しました。

TV 及び MG 検出の乖離解析はそれぞれ国内未承認品の核酸検出法(キット B、キット C)を用いて行いました。

TV 検出における国内臨床診断との比較

TV(女性尿)		臨床診断(培養法)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	8	24 ^{※23}	32
	陰性	0	753	753
	計	8	777	785

感度:100%(8/8)、特異度:96.9%(753/777)

※23: 乖離検体 24 例のうち、キット B により 23 例は陽性と判定されました。

TV(腔擦過物)		臨床診断(培養法)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	14	10 ^{※24}	24
	陰性	0	393	393
	計	14	403	417

感度:100%(14/14)、特異度:97.5%(393/403)

※24: 乖離検体 10 例のうち、キット B により 9 例は陽性と判定されました。

TV(男性尿)		臨床診断(培養法)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	1	1 ^{※25}	2
	陰性	0	208	208
	計	1	209	210

感度:100%(1/1)、特異度:99.5%(208/209)

※25: 乖離検体 1 例は、キット B により陽性と判定されました。

MG 検出における国内臨床診断との比較

MG(女性尿)		臨床診断(キット A)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	127	8 ^{※27}	135
	陰性	17 ^{※26}	630	647
	計	144	638	782

感度:88.2%(127/144)、特異度:98.7%(630/638)

※26: 乖離検体 17 例のうち、キット C により 16 例は陰性と判定されました。

※27: 乖離検体 8 例は、キット C の結果がすべて本品と一致しませんでした。

MG(腔擦過物)		臨床診断(キット A)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	99	1 ^{※29}	100
	陰性	22 ^{※28}	295	317
	計	121	296	417

感度:81.8%(99/121)、特異度:99.7%(295/296)

※28: 乖離検体 22 例のうち、キット C により 21 例は陰性と判定されました。

※29: 乖離検体 1 例は、キット C の結果が本品と一致しませんでした。

MG(男性尿)		臨床診断(キット A)		
		感染	非感染	計
本法	陽性	25	0	25
	陰性	3 ^{※30}	175	178
	計	28	175	203

感度:89.3%(25/28)、特異度:100%(175/175)

※30: 乖離検体 3 例は、キット C により陰性と判定されました。

【性能】

1. 性能

【用法・用量(操作方法)】の記載に従い以下の試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

(1) 「管理用試料 1」及び「管理用試料 2」を 8 回同時に測定するとき、有効測定数は 7 回以上であり、すべての有効測定値は以下の範囲内にある。

「管理用試料 1」の TV DNA の Ct 値: 32.9~37.3

「管理用試料 1」の MG DNA の Ct 値: 33.9~38.5

「管理用試料 1」の内部コントロール DNA の Ct 値: 27.4~31.3

「管理用試料 2」の内部コントロール DNA の Ct 値: 27.4~31.3

ただし、有効測定値が上記範囲外であった場合でも以下の範囲内である場合には、更に「管理用試料 1」及び「管理用試料 2」を 16 回同時に測定し、有効測定数は 15 回以上、初回の有効測定結果と合わせたすべての有効測定値が以下の範囲内であることを確認する。

「管理用試料 1」の TV DNA の Ct 値: 32.1~38.1

「管理用試料 1」の MG DNA の Ct 値: 33.1~39.3

「管理用試料 1」の内部コントロール DNA の Ct 値: 26.8~32.0

「管理用試料 2」の内部コントロール DNA の Ct 値: 26.8~32.0

(2) 「管理用試料 2」を 8 回同時に測定するとき、有効測定数は 7 回以上であり、すべての有効測定値は以下の規格を満たす。すなわち、陰性率は 100%である。

TV DNA の Ct 値: Ct 値は得られない

MG DNA の Ct 値: Ct 値は得られない

陰性率(%): Ct 値が得られなかった測定数／有効測定数 × 100

ただし、有効測定値が上記規格を満たさなかった場合でも、TV DNA 及び MG DNA の Ct 値のいずれかで Ct 値が一回のみ得られた場合、更に「管理用試料 2」を 16 回同時に測定し、有効測定数は 15 回以上、初回の有効測定結果と合わせたすべての有効測定値は以下の規格を満たすことを確認する。すなわち、陰性率は 95.5%以上である。

TV DNA 及び MG DNA の Ct 値: いざれかの Ct 値が一回のみ得られる

陰性率(%): Ct 値が得られなかった測定数／有効測定数(1 回目と 2 回目の合算) × 100

管理用物質

「管理用試料 1」は、以下の成分を含む液である。

TV DNA 塩基配列含有プラスミド: 約 60 コピー/mL

MG DNA 塩基配列含有プラスミド: 約 70 コピー/mL

「管理用試料 2」は、緩衝剤等を含む液である。

2. 最小検出感度(LoD)

TV 及び MG 株の希釈系列試料を作製し、本品で多重測定しました。95%以上の陽性率(陽性と判定された測定数／有効であった測定数 × 100)を示す最小検出濃度を LoD と定義した結果、各株の LoD は下表のとおりでした。

検体種	TV RP 株 (cells/mL)	TV CDC085 株 (cells/mL)	MG MG37 株 (copies/mL)	MG M30 (copies/mL)
尿	0.1	0.03	0.5	1
腔擦過物	0.3	0.075	4	4
子宮頸管擦過物	0.2	0.2	2	2

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意

(1) 検体及び本キットの取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。

(2) ピペットは口で吸わないでください。

(3) 試葉が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。

(4) 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに多量の水で洗い流してください。

(5) 試薬をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。

(6) 検体をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 5,000 ppm、0.5%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(7) 検体及び本キットを取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。

2. 使用上の注意

- (1) プライマー及びプローブは、測定する細菌の遺伝子の中でも保存性が高く変異が少ない遺伝子領域を反応のターゲットとしておりますが、稀に起る遺伝子の変異や欠損/挿入などにより、反応性が低下し正確に測定できない場合や検出できない場合があります。
- (2) 細菌の DNA の測定・検出の結果は、検体採取の方法や感染の進行度などの患者因子の影響を受ける場合があります。
- (3) 従来の測定方法から新しい測定方法に変更する場合は、変更前後の測定方法の相関性などを確認のうえご利用ください。
- (4) 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。
- (5) 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- (6) ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。
- (7) バーコードをぬらしたり、ペンで記入するなどして汚したりしないでください。
- (8) コバス OMNI 検体希釈液とコバス OMNI ライナス試薬は、室温に戻してから装置にセットしてください。
- (9) 使用開始後の試薬は微生物の汚染にご注意ください。
- (10) 検査区域の分割やビペットの専用化及び次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 5,000 ppm, 0.5%)による器具、実験台の清掃などを徹底して行ってください。
- (11) 本キットを取り扱う際には微生物や核酸分解酵素のコンタミネーションを避けください。汗や唾液に含まれる RNase 又は DNase が少量でも検体に混入しますと、RNA や DNA が分解され測定結果に誤りが生じる可能性があります。
- (12) プロテアーゼ試液(PASE)、内部コントロール〔DNA-IC〕、溶出試液(EB)、マスター ミックス 1〔MMX-R1〕及びマスター ミックス 2〔TV/MG MMX-R2〕について、一度使用した試薬は、2~8°Cで 90 日又は使用期限のうち、短い日付まで安定です。これらの試薬は、「コバス 5800 システム」では測定合計回数 40 回又は機器上で合計 36 日間まで使用が可能です。「コバス 6800 システム」又は「コバス 8800 システム」では測定合計回数 40 回又は機器上で合計 40 時間まで使用が可能です。
- (13) プロテアーゼ試液にはアレルギー反応を起こすおそれがあるサチライシンが含まれていますので、取扱いにはじゅうぶんに注意してください。
- (14) プロテアーゼ試液には 1% 未満のホウ酸が含まれています。ホウ酸は皮膚腐食性及び皮膚刺激性があります。また、目に対する重篤な損傷又は刺激を与えるおそれがありますので、必要に応じて保護衣や保護眼鏡を用いてください。誤って皮膚に付着したり、目に入ったりした場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。

3. 廃棄上の注意

- (1) 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。
- (2) 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。
- (3) 廃棄する際は、水質汚濁法等の規制に留意して処理してください。
- (4) 検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 5,000ppm, 0.5%)などの消毒液を使用してじゅうぶんふきとてください。なお、ふき取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。
- (5) コバス OMNI ライナス試薬及び装置から出た廃液はグアニンチオシアン酸塩を含みます。グアニンチオシアン酸塩は次亜塩素酸剤と反応して有毒ガスを発生することがありますので、次亜塩素酸剤と接触させないでください。
- (6) 内部コントロール、マスター ミックス 1、マスター ミックス 2、コバス 6800/8800 システム バッファ陰性コントロールキット、コバス OMNI MGF 試薬及びコバス OMNI 検体希釈液は 0.1% 未満のアジ化ナトリウム、コバス TV/MG 陽性コントロールキットは 0.05% 未満のアジ化ナトリウムを含みます。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性のある金属アジドを生成するため、廃棄の際には多量の水で洗い流してください。
- (7) 使用済みコバス OMNI P プレート 24、及びコバス OMNI P プレートはグアニンチオシアン酸塩を含みます。グアニンチオシアン酸塩は次亜塩素酸剤と反応して有毒ガスを発生することがありますので、次亜塩素酸剤と接触させないでください。
- (8) コバス PCR メディア 検体採取キットは塩酸グアニンを含みます。塩酸グアニンは次亜塩素酸と反応して有毒ガスを発生することがありますので、次亜塩素酸と接触させないでください。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法

2~8°C

2. 有効期間

24 ヶ月

使用期限(Exp.)は外箱に記載しております。

【包装単位】

コバス TV/MG 増幅・検出用試薬セット 384

384 テスト

※適用機種

- ・コバス5800システム
- ・コバス6800システム
- ・コバス8800システム

(各構成試薬の詳細につきましては、【形状・構造等(キットの構成)】を参照してください)

【主要文献】

- 1) Higuchi, R. et al. Simultaneous amplification and detection of specific DNA sequences. Biotechnology (N Y). 1992, 10, p.413~417.
- 2) Heid, C.A. et al. Real time quantitative PCR. Genome Research. 1996, 6, p.986~994.
- 3) Longo, M.C. et al. Use of uracil DNA glycosylase to control carry-over contamination in polymerase chain reactions. Gene. 1990, 93, p.125~128.

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
カスタマーソリューションセンター
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル: 0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル: 0120-600-152

《特許に関連するお知らせ》

本製品をご購入頂きましたお客様は、これら製品をヒトの体外診断目的における PCR による核酸配列の増幅と検出、及びその関連工程に使用することが許諾されています。この特定された使用許諾権以外には、いかなる種類の特許権又はライセンスも許諾されているものではありません。

COBAS is a trademark of Roche.
コバスは Roche の商標です。

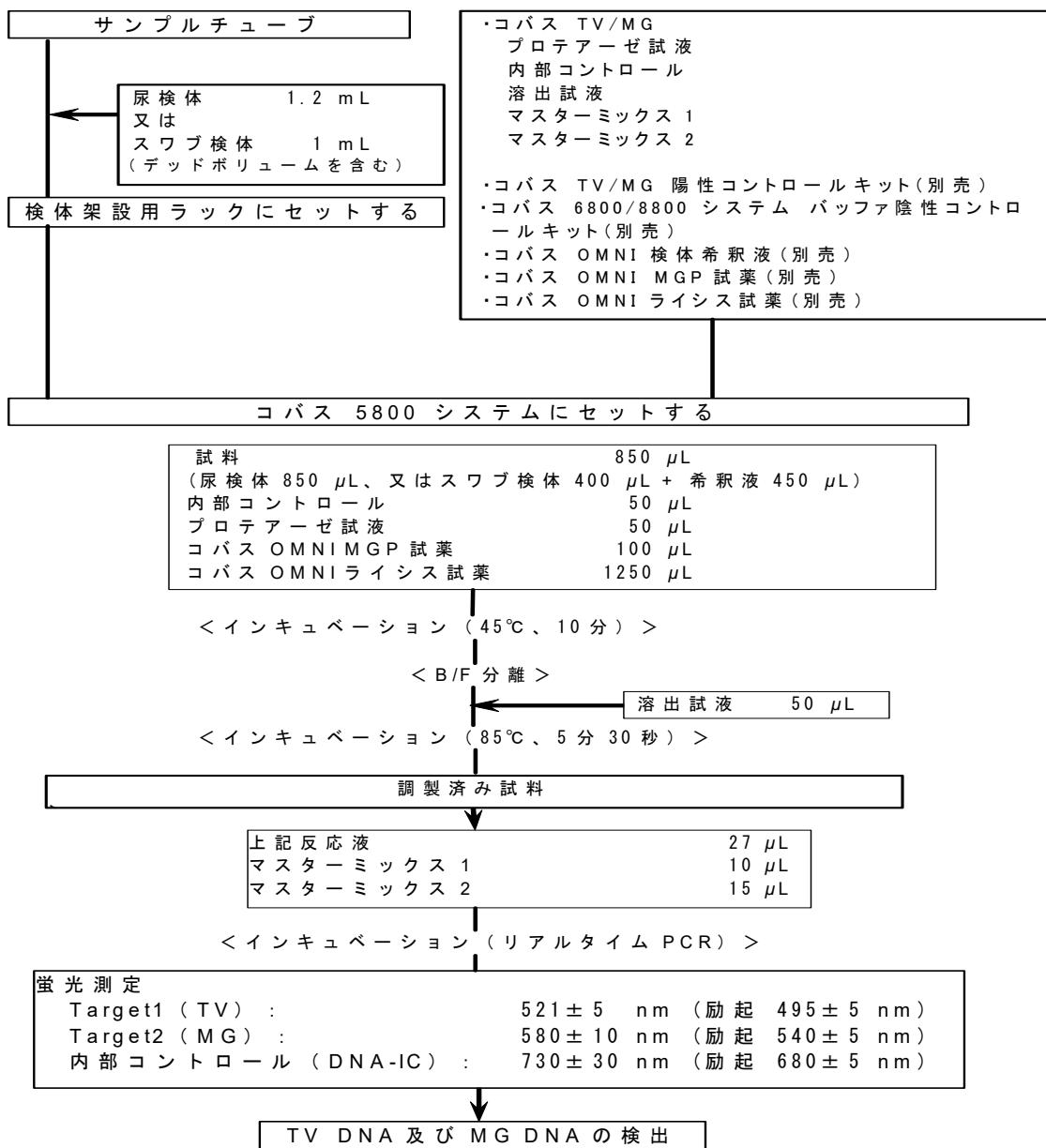
別表

交差反応性の検討に使用された微生物(細菌、菌類及びウイルス)

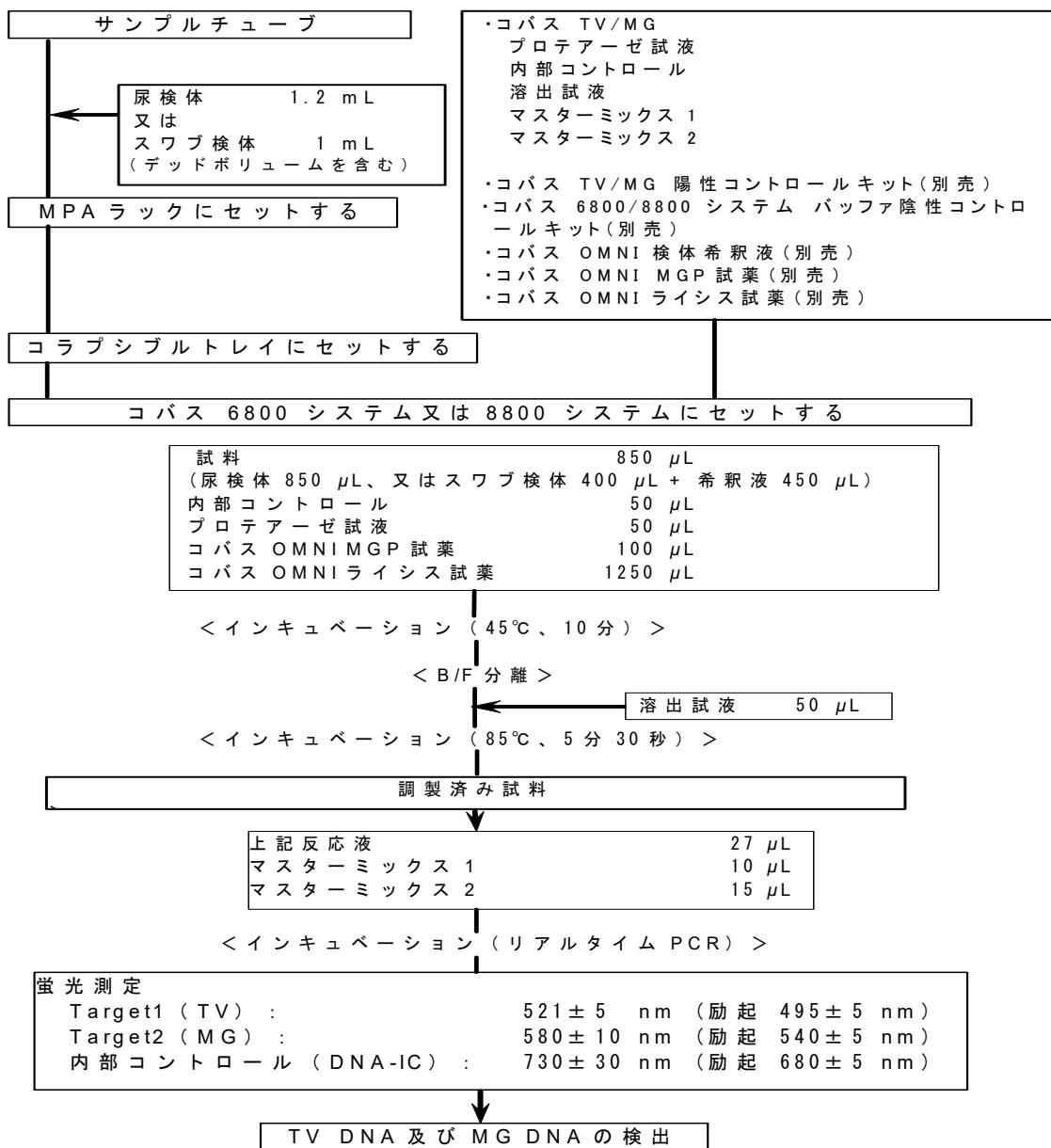
微生物名	濃度	微生物名	濃度
<i>Acholeplasma laidlawii</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Klebsiella oxytoca</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Acholeplasma oculi</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Klebsiella pneumonia</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Achromobacter xerosis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Lactobacillus acidophilus</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Acinetobacter lwoffii</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Lactobacillus crispatus</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Actinomyces israelii</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Lactobacillus jensenii</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Aerococcus viridans</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Lactobacillus vaginalis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Aeromonas hydrophila</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Leptotrichia buccalis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Alcaligenes faecalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Leuconostoc mesenteroides</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Atopobium vaginæ</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Leuconostoc paramesenteroides</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Bacillus subtilis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Listeria monocytogenes</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Bacteroides fragilis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Micrococcus luteus</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Bacteroides ureolyticus</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mobiluncus curtisi</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Bifidobacterium adolescentis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Moraxella osloensis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Branhamella catarrhalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Moraxella catarrhalis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Brevibacterium linens</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Moraxella lacunata</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Campylobacter jejuni</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Morganella morganii</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Candida albicans</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycobacterium smegmatis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Candida glabrata</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma faecium</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Candida parapsilosis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma fermentans</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Candida tropicalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma hominis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Chlamydia trachomatis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma oralis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Chromobacterium violaceum</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma penetrans</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Citrobacter braakii</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma pirum</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Clostridium perfringens</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Clostridium difficile</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma primatum</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Corynebacterium genitalium</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma salivarium</i>	1.0E+06 copies/mL
<i>Corynebacterium xerosis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Mycoplasma spermophilum</i>	1.0E+06 ccu/mL
<i>Cryptococcus neoformans</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Cytomegalovirus</i>	1.0E+05 IU/mL	<i>Pentatrichomonas hominis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Derkia gummosa</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Peptostreptococcus anaerobius</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Dientamoeba fragilis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Prevotella bivia</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Eikenella corrodens</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Propionibacterium acnes</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Enterobacter aerogenes</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Proteus mirabilis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Enterobacter cloacae</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Providencia stuartii</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Enterococcus avium</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Enterococcus faecalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Rahnella aquatilis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Enterococcus faecium</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Rhizobium radiobacter</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Erysipelothrix rhusiopathiae</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Rhodospirillum rubrum</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Escherichia coli</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Flavobacterium meningosepticum</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Salmonella minnesota</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Fusobacterium nucleatum</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Serratia marcescens</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Gardnerella vaginalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Staphylococcus aureus</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Gemella haemolysans</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Staphylococcus epidermidis</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Giardia intestinalis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Haemophilus ducreyi</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1.0E+06 CFU/mL
Herpes Simplex Virus Type 1	1.0E+05 copies/mL	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1.0E+06 CFU/mL
Herpes Simplex Virus Type 2	1.0E+05 copies/mL	<i>Trichomonas tenax</i>	1.0E+04 cells/mL*
<i>Mycoplasma hominis</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Ureaplasma urealyticum</i>	1.0E+06 ccu/mL
Human Immunodeficiency Virus	1.0E+05 copies/mL	<i>Veillonella parvula</i>	1.0E+06 CFU/mL
Human Papillomavirus type 16	1.0E+05 cells/mL	<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1.0E+06 CFU/mL
<i>Kingella denitrificans</i>	1.0E+06 CFU/mL	<i>Yersinia enterocolitica</i>	1.0E+06 CFU/mL

※TV 検出において 1.0E+04 cells/mL の濃度まで本品への影響は確認されませんでしたが、MG 検出においては 1.0E+06 cells/mL まで影響は確認されませんでした。

《コバス 5800 システム操作概略》



《コバス 6800/8800 システム操作概略》



ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社